

業務部速報



No. 84

発行 23. 3. 10

JR東労組 業務部

幹本申9号

『2023年度新幹線総合車両センター業務計画について』に関する申し入れを提出!

JR東労組は「2023年度新幹線総合車両センター業務計画について」の提案を受け、組合員と疑問点などを議論してきました。提案では「安全安定輸送の確保を大前提としながら、台車モニタリング工事やE8系新幹線営業投入、E956系の全般検査等を推進し、変化の大きい社会環境の中でも新幹線電車のメンテナンスを持続的に実施していくためグループ全体で連携して業務を遂行していく」ことが示されています。その中で、台車科の一部業務委託や検査科等の業務体制変更など、組合員の働き方は大きな変化が生じていきます。新幹線総合車両センターは、新幹線車両のマザーベースとしての役割は変わることなく重要性は増していると考えます。社員の世代交代や業務委託が進む中においても、安全・安定輸送を確保するためには、これまで培ってきた技術力を維持・向上させていく体制を構築することが喫緊の課題であり、組合員の職場と仕事を守り、安全第一の職場環境を構築するために団体交渉を行ってまいります。

<要求内容>

【共通】

1. 新幹線総合車両センターの将来ビジョンについて、今後10年間の具体的な施策計画を明確にし、社員がキャリアプランを描きやすい環境を整えること。また、将来構想を踏まえ、計画的に新入社員を配属させること。
2. 新幹線の安全・品質の確保、および規程の遵守に向けて、整備標準を見直すプロジェクトを立ち上げ、次の改訂に向けて検査内容を精査すること。
3. フレックスタイム制の適用拡大について、この間の成果と課題を明らかにすること。また、定期的に検証を行い、柔軟な働き方ができる制度となるように改善を行うこと。
4. 列車通勤が基本であることから、勤務時間を考慮した利府線ダイヤとすること。特に、午後半休取得者が4474M列車に間に合わない事象が発生していることから、次の改正に向けて東北本部と連携して検証・改善を行うこと。
5. 新利府駅で乗降するショッピングモール利用者が多いことから、利府駅からのバス利用を案内する車内放送を継続して実施すること。また、中央門付近での乱横断者が多いことから、引き続き関係箇所と連携して改善を図ること。

【台車科】

1. 委託に伴う要員効果の活用については、本人希望を尊重し、適性や能力に応じて適正に実施すること。また、委託先への出向は技術継承を目的とすること。
2. 不具合対応から材料管理に至るまで、委託会社で完結できる体制を基本とすること。また、車両品質の維持・向上のために、定期的に監督科で作業状況の点検を行うこと。
3. 軸箱後蓋からの漏油が多く発生していることから、委託後もJR本体が主導となり、委託会社と連携して原因究明と対策に取り組むこと。

【検査科】

1. 交検体制の変更後も、休暇取得をはじめ、教育訓練、研修や委員会、競技会等へ参加できる適正な要員配置とすること。また、台検試運転や中間整備(季節整備)、各種工事の対応が発生することから、必要な要員を確保すること。
2. 社員の生活設計や働き方改革を踏まえ、年間予定通りの休日となるように交検計画を調整すること。また、休日変更が発生する場合は、公平・平等となるように配慮すること。
3. 交検施行箇所の変更は、計画的に実施すること。また、車両の持ち替え調整、および交検施行本数平準化の準備について、具体的な内容を明らかにすること。
4. 台検試運転の体制変更について、4月1日時点、および最終的な目標を明らかにすること。また、計画科社員の負担増とならないように、関係者間のコミュニケーションを密にして要員計画を行い、前広に情報を展開すること。
5. 台検試運転要員の養成は、担当者が不安なく業務できるように十分な教育を行い、計画的に実施すること。また、定期的に教育を行い、技術力の維持・向上を図ること。
6. 台検試運転時の不具合修繕や故障調査は、担当者が責任を持って対応すること。また、不適合やヒューマンエラーの対策は、計画科社員も交えて検討する体制とすること。

新幹線の安全・品質を確保するために職場議論を深めよう!